令和4年11月4日

令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　６７人

②　算数　６７人

③　理科　６７人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

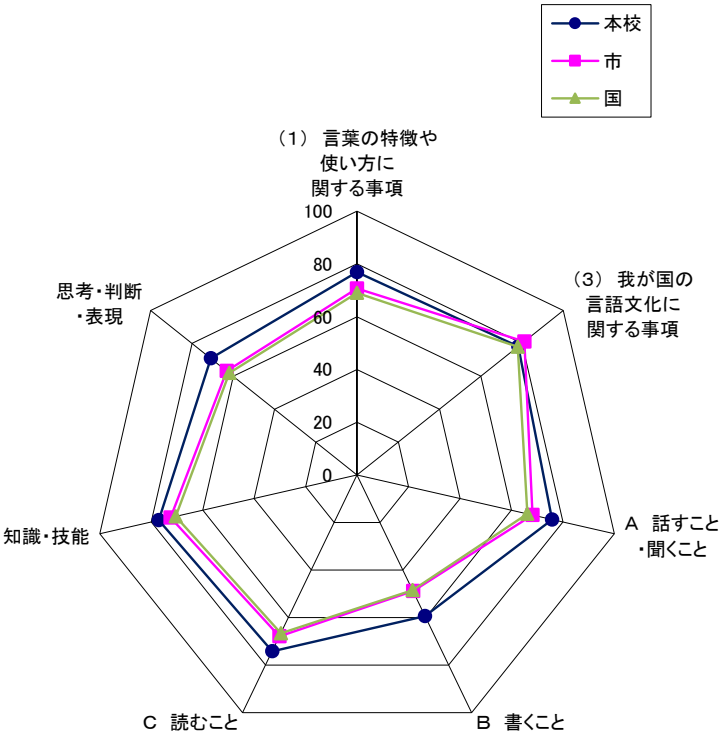
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9	70.7	69.0
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	78.1	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	75.8	68.2	66.2
	B 書くこと	59.4	48.9	48.5
	C 読むこと	74.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	77.1	72.5	70.5
	思考・判断・表現	70.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

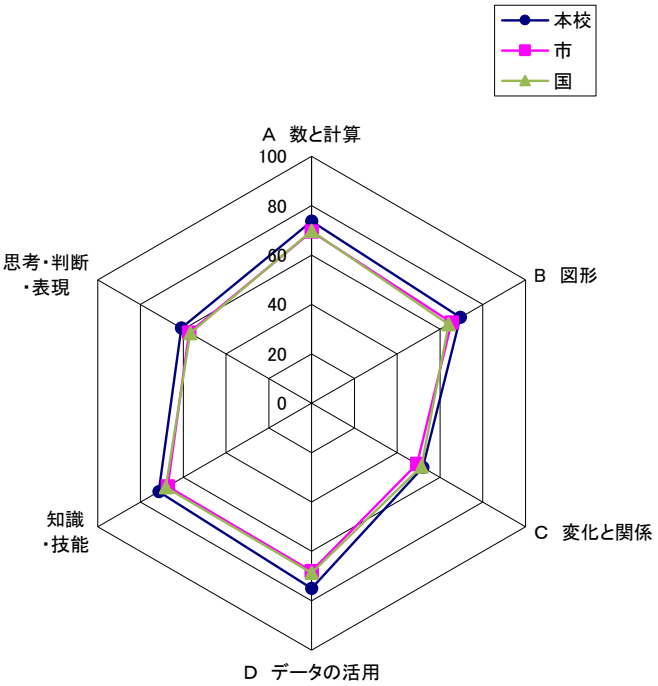
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（１）言語の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は76.９％で，市の平均を6.2ポイント上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問は，よくできている。	・学習や生活を通して，文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり，漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。
（３）我が国の言語文化に関する事項	●領域の平均正答率は78.1％で，市の平均を3ポイント下回っている。 ●漢字や仮名の大きさ，配列に注意し，相手の読みやすさを考えた書き方を選ぶ設問に課題が見られた。	・低学年から行の中心を意識して文章を書けるように指導していく。 ・なぞり書きや視写を行うことで，リーダー線を意識して文字や文章が書けるように指導する。
A　話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は75.8％で，市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，自分の考えをまとめるという設問では，求められた条件を満たして記述することができている。	・条件付きの作文を書く活動を意図的に取り入れる。 ・今後も互いの立場や意図を明確にしながら話し合い，自分の考えをまとめる学習活動を計画的に取り入れる。
B　書くこと	○領域の平均正答率は59.4％で，市の平均を10.5ポイント上回っている。 ○文章に対する感想や意見から，文章のよいところを見つけ，条件に合わせて書き表す設問がよくできている。	・今後も条件に合わせて書く活動を多く取り入れる。 ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整える指導を行う。
C　読むこと	○領域の平均正答率は74.2％で，市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○登場人物の相互関係について描写を基に捉える設問がよくできている。 ○表現の効果を考える設問がよくできている。	・解説文や鑑賞文などの様々な文章に触れる機会を意図的に設ける。 ・読書活動を積極的に取り入れ，文章に慣れ親しむ。

宇都宮市立上戸祭小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.7	69.5	69.8
	B 図形	69.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	52.0	49.3	51.3
	D データの活用	75.0	68.0	68.7
観点	知識・技能	71.5	67.3	68.2
	思考・判断・表現	60.9	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

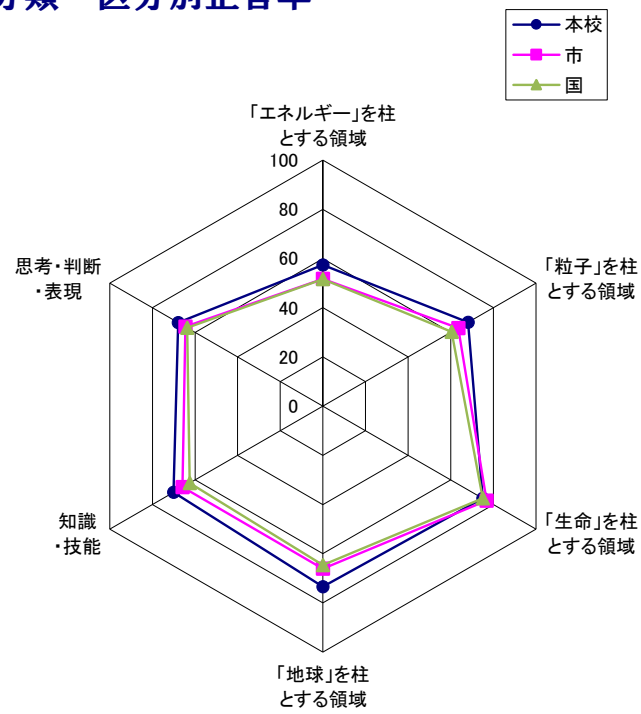
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○領域の平均正答率は73.7％で，市の平均より4.2ポイント高い。 ○表の意味を理解し，全体と部分の関係に着目してある項目にあたる数を求める設問の平均正答率は82.8％であった。 ●示された場面において，目的にあった数の処理の仕方が考察できるかを問う設問の平均正答率は23.4％であった。	・図や文章から必要な数値を選び，問題を解決する場面を意図的に設け，問題場面を確実に理解し立式する指導を今後も継続していく。 ・具体的で身近な問題に，条件を変えて繰り返し取り組むことで，概数の利活用の機会に気付き，仕組みを理解したり，その利便性を感じたりできるようにする。
B 図形	○領域の平均正答率は69.5％で，市の平均より4.1ポイント高い。 ○示されたプログラムについて，正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す設問の平均正答率が68.8％であった。 ●示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ設問の平均正答率は53.1％であった。	・長方形の意味や性質，構成の仕方についての基本的な知識は定着しているが，正三角形やひし形，平行四辺形についての理解が不十分なところがある。作図の仕方を筋道立てて考えさせることで，図形を構成する要素やそれらの関係に着目できるように支援していく。
C 変化と関係	○領域の平均正答率は52.0％で，市の平均より2.7ポイント高い。 ○百分率で表された割合と基準量から，比較量を求める設問の平均正答率は，79.7％であった。 ●数量が変わっても割合が変わらないことを問う設問の平均正答率は4.7％であった。	・「割合」の学習においては，数直線や式，言葉などを用いて説明する活動を多く取り入れ，基準量と比較量の関係を理解させるようにする。
D データの活用	○領域の平均正答率は75.0％で，市の平均より7.0ポイント高い。 ○表の空欄に入る数を求める式と答えを書く設問の平均正答率が高く，82.8％であった。 ○条件に合うグラフを選択し，必要な情報を読み取る設問の平均正答率が高く，71.9％であった。	・算数の授業の中で，棒グラフや円グラフの読み取りを行う際に，目的に応じてデータの特徴を捉え，考察する活動を取り入れる。 ・算数だけでなく，他の教科や生活の中で，目的のために必要なデータを集めたり選んだりする活動を意図的に取り入れ，活用力を高める。

宇都宮市立上戸祭小学校第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	57.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	68.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	75.0	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	73.4	66.1	64.6
観点	知識・技能	70.1	65.9	62.5
	思考・判断・表現	67.9	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○領域全体の平均正答率は57.4％で，市の平均を5.7ポイント上回っている。 ○鏡で反射させた日光を集めた時の実験結果から，課題を解決するために適切な結果を選ぶ問題では，正答率が81.3％と高い数値を示している。 ●鏡を操作して，指定した的に反射した日光を当てる問題では，正答率が32.8％と低くなっている。	・実験結果をもとに，そこからどんなことが推測されるかといった考察をまとめる活動を，今後も授業の中で継続的，重点的に行っていく。 ・自分で予想したことを，実際に実験を行うことで検証したり，実験結果から生じた疑問についてさらに検証したりするなど，体験的活動を通してより理解を深められるよう支援していく。
「粒子」を柱とする領域	○領域全体の平均正答率は68.1％で，市の平均を4.6ポイント上回っている。 ○「メスシリンダー」という器具の名前を答える設問の平均正答率は90.6％と，高い数値を示している。 ○水蒸気が冷やされると水滴になることを問う設問の正答率は73.4％で概ね理解していると言える。 ●メスシリンダーのめもりを正しく読むことに関する設問の平均正答率は68.8％で理解がやや不十分だと言える。	・実験器具の正しい使い方が身に付くように，実演を交えて丁寧に説明したり，実際に操作したりする機会を意図的に多く取り入れる。 ・実験結果から考察して，きまりを見出したり，新しい問題を発見したりする活動を充実させる。
「生命」を柱とする領域	●領域の平均正答率は75.0％で，市の平均より，1.8ポイント下回っている。 ○自分で観察して収集した情報と追加された情報を基に，問題に対するまとめを検討・改善し，自分の考えを記述する設問では，70.3％と高い正答率を示している。 ●観察などで得た結果を，他者の気付きの視点で解釈し，自分の考えを問う設問の平均正答率が低い。	・実験結果を日常生活での経験と結び付けて考察し，自分の考えを表現する機会をさらに増やしていく。 ・観察の目的を明確にするとともに，観察前後の様子を比較・分析して文章化するといった活動を通し，基礎的な知識を身に付ける。
「地球」を柱とする領域	○領域全体の正答率は73.4％で市の平均を7.3ポイント上回っている。 ○予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して，問題を解決する道筋を立て,自分の考えをもつ問題に対するは正答率が高い。 ●観察などで得た結果を,結果から言えることの視点で分析して解釈し,自分の考えをもつことに課題が見られる。	・問題解決において，仮説・予想を立て，結果をまとめ考察するといった順序立てて考えていく場面を意図的に設定し，指導を継続する。 ・様々な形式のグラフを読み取る活動を多く取り入れ，読み取った情報を取捨選択したりデータを分析したりする力を育成していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか」という設問に対する肯定割合は94.1%で県より14.2ポイント高く，全国より16.8ポイント高い割合になっている。「5年生までに受けた授業では，各教科で学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という設問に対する肯定割合は95.5%で県より19.2ポイント高く，全国より23.3ポイント高い割合になっている。また，「総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という設問に対する肯定割合は97.0%で県より17.9ポイント高く，全国より24.3ポイント高い割合になっている。これらのことから課題に主体的に取り組み，学んだことを生かしながら自分の考えをまとめていることが分かる。
○「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか」という設問に対する肯定割合は94.1%で県より17.7ポイント高く，全国より21.6ポイント高い割合になっている。また，「自分で決めたことは，やり遂げるようにしていますか」という設問に対する肯定割合は98.5%で県より9.1ポイント高く，全国より11.3ポイント高い割合になっている。これらのことから，進んで挑戦し，最後までやり遂げようとする意欲をもっていることが分かる。
○「国語の勉強は好きですか」という設問に対する肯定割合は77.6%で県より15.9ポイント高く，全国より18.4ポイント高い割合になっている。また，「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか」という設問に対する肯定割合は100%である。これらのことから，高い関心や意欲をもちながら学習に取り組んでいることが分かる。
●「理科の勉強は大切だと思いますか」という設問に対する肯定割合は85.1%で県より2.6ポイント低く，全国より1.4ポイント低い割合になっている。科学が生活に役立っている例を紹介したり，身近な不思議を科学で解決したりするなどして関心を深めていきたい。
●「5年生までに受けた授業で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか」という設問に対し，週3回以上と回答した割合は40.3%で県より18.7ポイント低く，全国より17.9ポイント低い割合になっている。この結果を踏まえて，「自分で調べる場面」「学級の友達と意見を交換する場面」「自分の考えを発表する場面」「個別型学習ドリル」においてほぼ毎日ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用しており，児童の学びを広げたり深めたりしている。

宇都宮市立上戸祭小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思いを豊かに表現し，自分の考えを深められる児童の育成	・読み取ったことや考えたことを，根拠を示しながら説明する活動を継続的かつ計画的に取り入れている。 ・思考を共有する時には，視点を持って自分の考えと友達の考えを比較することで，自分の考えを吟味し深められるようにしている。 ・一人一台端末を活用することで，思考の共有を効果的に行ったり，自分の考えを吟味し深めたりできるようにしている。	・国語では，条件に合わせて書き表す設問の正答率が高く，理科では，自分の考えを記述する設問の正答率が高い。 ・アンケートにおいて，ICTの活用に関する設問について肯定的割合が，県や市の平均を下回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語では，読み手が理解しやすい書き方の工夫を問う問題の正答率がやや低かった。 ・算数では，図形や割合の理解を問う問題にやや課題が見られた。 ・理科では，実験器具の使い方における理解にやや課題が見られた。	書く力の育成 基礎知識の定着 ICTの効果的かつ日常的な活用	・字数を制限したり短い言葉で要点をまとめたりしながら文章を書く活動や目的を意識した文章を書く活動，新聞記事の視写を取り入れる。 ・具体物の操作活動を十分に行い，計画的に復習の機会を設けることで基礎知識の定着を図る。 ・ICTを様々な場面で効果的に活用することができるよう，今後も職員研修の充実を図る。